インフォーメーション・クリップ

子どもNPOセンター Information Clip

講演

チャイルドラインから見える子どもたち



「チャイルドラインから見える子どもたち」をテーマに、ふくいチャイルドライン室長　谷内由美子が講演をします。地域の団体やPTAなどで“子どもの今”を一緒に考えてみませんか。

「講師、派遣します」



演劇的手法(ドラマエディケーション)を用いて、子どもたちの豊かな表現力やコミュニケーション力を育み可能性を引き出していきます。

■実績：大野市小学校、越前市小学校など

子ども会のイベントやお祭りなどで
子どもNPOセンターの

\楽しい/「手作り遊び」を使ってみませんか?



◎スマートボール
◎巨大ジェンガ
◎空き缶つりぼり
◎カウボーイ輪投げ
◎射的
◎ストラックアウト
◎千本引き
◎人間もぐらたたき
◎皿まわし　など

お気軽にお問合せください。

認定NPO法人 福井県子どもNPOセンターにご支援ください。

子どもNPOセンターは、国際条約でもある「子どもの権利条約」に沿って子どもの最善の利益を考えて日々の活動をつないでいます。

A. 賛助会員
子どもNPOセンターの目的に賛同し、活動を支援する会員。

- ●個人　一口年額／ 5,000円
- ●団体(法人)　一口年額／10,000円

B. ボランタリー会員
子どもNPOセンターの目的に賛同し、活動にボランティアとして協力・参加する個人。

- ●個人　一口年額／ 1,000円

C.一般寄付も受け付けています。

入会方法

郵便振替の通信欄に、
❶住所 ❷氏名 ❸電話番号
❹会員の種類(左記ABCいづれか)
❺口数 を記入してお振込みください。

郵便振替
00770-1-45546
福井県子どもNPOセンター

◎税制上の優遇措置について

「認定特定非営利活動法人」へのご寄附や、正会員以外の年会費等は、下記のような税制上の優遇措置(寄附金控除)が受けられます。ぜひご利用ください。

❶個人のご寄附
【所得税】(寄附金の合計額 −2,000円)×40%が税額控除されます。[上限：所得税額の25%]
【住民税】自治体によって異なります。お住まいの自治体にお問い合わせください。
【相続税】相続または遺贈により財産を取得した方が、取得した財産を相続税の申告期限内に寄附した場合、寄附をした財産には相続税が課税されません。

❷法人のご寄附(法人税)
認定特定非営利活動法人への寄附金の特別損金算入限度額が改正されました。(2012/4/1)
{(資本金×(当期の月数÷12)×0.375%)＋(所得の金額×6.25%)}

※詳細については、最寄りの税務署にお問い合わせ下さい。また、国税庁のウェブサイト(国税庁＞申告・納税手続＞認定NPO法人制度)でも手続きの詳細が掲載されています。

団体正会員

鯖江子ども劇場	〒916-0024 鯖江市長泉寺町1-9-20 鯖江市民活動交流センター内
小浜子ども劇場	〒917-0231 小浜市国分50-9 TEL.0770-56-2867
勝山子ども劇場	〒911-0811 勝山市片瀬町1-402 勝山市民活動センター内 TEL.0779-87-1011　FAX.0779-87-1022
NPO法人 福井芸術・文化フォーラム	〒910-0019 福井市春山2-7-1(福井市文化会館内) TEL.0776-23-6905　FAX.0776-23-7905

福井県子どもNPOセンターを支援しています。

- ●有限会社アドヴァンス近信
- ●池田歯科医院
- ●大月産婦人科クリニック
- ●春日装備株式会社
- ●上屋敷工業株式会社
- ●学校法人 福井仁愛学園
- ●カフェリビングsu_mu
- ●造家屋
- ●千歳工業株式会社
- ●つちだ小児科
- ●ネッツトヨタ福井株式会社
- ●光タクシー有限会社
- ●福井県映画センター
- ●まきレディースクリニック
- ●三井皮膚科医院
- ●やしろ歯科クリニック
- ●山内整形外科
- ●六感デザイン

Salt & Pepper
ソルト&ペッパー

「好きなものはムーミンと寅さん！」と3歳の娘。ムーミンはわかるが、ほとんどの保育園の先生が知らない謎の寅さん…誰？！ふんとうどりょくのかいもなく～♪と主題歌を熱唱しても、先生の反応はいまひとつ…親の趣味思考はいつの間にか子どもの中に植わっていくのだなぁと、嬉しさ半分反省半分の一幕でした。(えっちゃん)

記事、情報に関するお問い合わせは福井県子どもNPOセンターまで
認定NPO法人
福井県子どもNPOセンター
〒918-8106 福井市木田町36-1 コーポ木田201号
TEL.0776-97-8460　FAX.0776-97-8461
E-mail childnpo@muse.ocn.ne.jp
URL http://childnpo.com　見てね！



企画・編集／福井県子どもNPOセンター　デザイン／六感デザイン

こどもChannel 63号　2019年1月31日発行(年3回発行)　通巻第63号

Take Free [無料]

こどもChannel

みる　きく　あそぶ　かんがえる

「今」を生きる子どもたちと、かつて子どもだった大人たちをつなぐ情報誌。

発行：認定NPO法人 福井県子どもNPOセンター　URL：http://childnpo.com
2019 63号

特集 子どものチ・カ・ラ15

誰かの孤独に思いを馳せながら

相変わらずの性分で、このコラムの締切間近となり、ＰＣに向かうと新年を迎えていた。この新年は「平成最後～新しい年号となる記念すべき年明け」で特別感を煽られ感慨深い。私事で恐縮だが、平成前後からのこの約三十数年間、妊娠～出産～子育て～両親の死～子の結婚～孫の誕生という、人生における凝縮された出来事、つまり、一つの世代交代劇が繰り広げられ、新しい元号を迎える今、その交代劇もエンドマークとなり舞台が変わる。

以前、子育て講演会に講師としてよばれ、力説していた内容にこんなくだりがあった。「依存と自立との関係は対立するものでない。自立とは、独りで生きていくことではなく依存する相手を変えていくことであり、最終的には我が身を捨てても守りたい存在が出来た時こそ、初めて、その人にとっての真の自立と呼べるのではないか？」という一節だが、どなたか、覚えておられるだろうか？当時したり顔で他人様に向かって話していた自身だが、最近、そのくだりに、ハッとさせられた。我が子が、孫を一生懸命に世話している姿を目の前にして(あぁ、やっと、私の役目も終わったな・・・)と何故かその一節がよみがえり、妙に納得する自分がいた。

仕事柄、相手の気持ちに寄り添いながら、語られる悩みや苦しみを聴き取っているが、いつも(決めつけていないか？自身のバイアスがかかっていないか？)を心がけている。

そんなことを考えながらＰＣの原稿に向き合っていた時、点けていたＴＶから、いきなり飛び込んできた画面の中、「私の気持ちなんか誰にも分かりませんよ、この歳になって初めて母親の気持ちが分かることがザラです。そういうもんです。子どもの時や若かった頃、親の気持ちなどこれっぽっちも分かりませんでした。その時になってやっと分かるんです。だから、人は孤独なんです。当たり前なことです。」と105歳の書道家篠田桃紅が、全身で語っている。思わず、見入ってしまった。

人は一人として同じ存在はなく、孤独である。気持ちなど永遠に分かりっこないだろう。しかし、子どもが、親が、兄弟が、友人が、そして誰かが、つらく悲しい目にあった時、胸が押しつぶされそうになるような痛みを覚えるのはなぜだろう？(今、どんな思いなんだろう？大丈夫だろうか？)と思わず、想像し、思いを遣ってしまう。自身でない他者の真の痛みなど、永遠に理解できないだろう。しかし、「人は孤独である」ことを知っている我々は、他者の孤独に思いを馳せながら、声なき声を聴こうとすることは出来るはずだ。そんな思いを抱きながら、今年も、畏敬の念をもって、誰かの話に耳を傾けよう！と誓う。

(福井大学学生総合相談室コーディネーター　安岡恵子)



子ども思いの森
池田屋

あべこべ学校

子どもが先生？ 大人が生徒？









■授業：11月18日(日) 9時半～15時　■会場：福井県社会福祉センター
■子ども先生(小学生)：20名　■大人生徒：28名　■メインファシリテーター：島田妙子氏
■ファシリテーター：小柏博英氏、岡田伊佐央氏、今坂雄一郎氏、宮川知子氏、谷内由美子氏

「みんなが輝ける場所」

前回のあべこべ学校には大人生徒として参加し、今回はファシリテーターとしての参加。「大丈夫かな」「上手くできるかな」と、実際に授業を作る子ども先生達以上に不安な思いを抱えてのスタートでした。でも、やっぱり子どもの力って凄い!! いろんなアイディアを提案してくれる子、グループを盛り上げてくれる子、黙々と地味な作業に取り組む子、本番に強い子……みんなにそれぞれ輝ける場所があって、それが一つになることでもっと大きな輝きを放つんだなあと、準備から関わることでそんなことに改めて気づきました。子ども先生、そしてスタッフの皆さん、貴重な機会をありがとうございました。(今坂雄一郎)

報告







予告

ふくいチャイルドライン 受け手ボランティア募集



ふくいチャイルドラインは子ども専用電話です。子どもの声を聴くのは、一般の受け手ボランティアです。心身ともに健康な18才以上の人であれば、特別な資格は必要ありません。下記の研修をすべて受講した後、新年度受け手ボランティアとして活動してみませんか。

■とき：3月9日(土)10:00～17:00
■会場：福井県社会福祉センター　4階研修室
■研修費：3,000円　※公開講座は1,000円

時間	内容
10:00～12:00	公開講座「気になる子って、面白い！」福井県こども療育センター次長(医療) 津田明美氏
12:45～15:00	ロールプレイ「話をよく聴くということ」福井県カウンセリング研究会 巣守光氏
15:05～16:30	ワークショップ「子どもの権利を知ろう」理事長 齋藤万世
16:30～17:00	ガイダンス「チャイルドラインとは」チャイルドライン室長 谷内由美子

◎申込方法：郵送・FAX・メール（件名「受け手研修申込み」）のいずれか

表現ひろば
演劇キッズ 2018

発表 予告
「この星で、みんなが しあわせに生きるために」
■とき／3月16日（土）　開演14時
■会場／響のホール
■応援チケット／500円



■参加者：16名
（小学3年生～中学2年生）

7月にスタートした演劇キッズ2018。9月には待ちに待った台本もキッズ達の手に渡り、配役も決まって芝居作りに突入しました！今回初参加の子は、舞台のどこにいたら良いのかもわからない状態。そんな時も経験者の仲間が「ここに立った方がお客さんに見えると思うよ」等、声掛け合っている姿も見られて演劇キッズは、どんどんひとつになっているように思います。今回も子どもたちの素敵な個性が集り、どんな作品になるのか3月16日の発表が楽しみです。是非、響のホールに観にいらして下さい。(鴛田静佳)

ボクたちのお店

まちなか活性化
交流イベント事業

■とき：10月28日（日） 11時～15時　■会場：ハピリン　ハピテラス
■参加者：小学生168名(56店舗)　■お客さん：1,000名

報告







今回で「ボクたちのお店」は6回目となります。説明会では子ども用と保護者用の資料を作成し事業の目的を丁寧に伝えました。子どもからは「お客さんには大人もいますか？」「音が出るゲームをしてもいいですか？」などのたくさんの質問があり、やる気と頼もしさを感じました。子どもたちは初めての人とコミュニケーションをとり、リアルにお金をあつかう貴重な経験をしました。経験から得た多くの気づきは、きっと子どもたちの生きる力になることでしょう。

福井県まごころ基金助成事業
大人が学びあう講座

困難を抱えた子どもへの理解と支援

「真水に入れられた魚」講師のたとえは私たちをハッとさせた。真水が社会、魚が困難を抱えた子ども…発達に障害をもつ子どもに社会は真水であってはならない。魚が大海原をすいすいと泳ぐような子どもの個性を尊重し生きやすい社会をつくるのは、私たち大人である。子どもはありのままだ。変わるべきは私たちの意識である。だからこそ今何ができるのか…？参加者ひとりひとりが自分に向き合う講座だった。

第1回	「発達障害の世界を通訳してみると」 ■講師：笹森 理絵氏（社会福祉士、精神保健福祉士）　■とき：9月9日(日)14:00～16:00 ■会場：福井県社会福祉センター2階 身障第2研修室　■参加者：82人
第2回	「若者理解へ～かかる自身のバイアスについて～」 ■講師：安岡 恵子氏（福井大学学生総合相談室コーディネーター） ■とき：10月13日(土)14:00～16:00 ■会場：アオッサ6階　研修室603　■参加者：24人
第3回	「コミュニケーションが取りにくい子どもといい関係を作る」 ■講師：小坂 浩隆氏（福井大学教授 子どものこころの発達研究センター情動認知発達研究部門） ■とき：11月11日(日)14:00～16:00 ■会場：福井県社会福祉センター4階　研修室　■参加者：32人



報告

笹森氏は、生き難さを語ることができる発達障害の当事者です。学齢期には発達障害の概念が乏しく、ご結婚されてから診断がつき安堵されたそうです。それまではなぜ自分は人と同じことができないのか、なぜ叱責されるのか分からず、家や学校にも居場所がなくボロボロだったとのことでした。講演では、①発達障害の具体的な特性・こだわりについて ②その子の困難はどこからくるのか、観察の重要性 ③困っている現状、解決にむけての支援と具体的にお話して頂きました。(谷内由美子)

参加者アンケート

自己肯定感をもたせながら親への支援をしていくことも大切であり、発達障害の子ども達も支援によってすごい成長と変化を遂げていくことがわかりました。

若者は「初対面の付きあいは苦じゃないが、くりかえしの人間関係は苦手」という話に頭を抱えました。まずは希薄な人間関係と決めつけないで、こちらの忍耐を試してみたい。

発達障害のお子さんは「困った子」ではなく「困っている子」、その困り感を少しでもへらしてあげることができるように寄り添っていきたい。

報告

福井市木田児童クラブ運営委員会委託事業
木田児童クラブサポート事業

さとちゃんのおやつ
さとちゃんのお世話係

～自分の身体は自分が食べたものでできている～

子ども達には、自分の身体をつくり成長を応援してくれる食べものに興味をもってほしい。木田児童クラブで月に1回「さとちゃんのおやつ」の時間があります。4月からのテーマは「まごわやさしい」マメの月はそらマメなどの観察会、ゴマの月はゴマすり体験、さかなの月は“いわしくん”の絵本のよみきかせをしました。楽しいミニ講座は子ども達に好評です。これからも食の大切さを伝えていきたいと思います。(佐藤慶子)



福井市木田児童クラブ運営委員会委託事業
どんぐりあるかな!?えんそく

報告

■とき：10月27日(土)9時半～14時
■ところ：ふくい健康の森
■講師：大石橋節子氏　■参加人数：29人

木田児童クラブ、第2木田児童クラブ合同で遠足を行いました。ふくい健康の森の遊歩道を「何かいるかな？」とみんなでゆっくり歩きます。途中で見つけた昆虫やきのこを虫メガネで見てみると‥‥フサフサやギザギザがあって驚きの声があがりました。虫嫌いで、この遠足にあまり気のりしなかった子も、最後にはみんなの前で楽しかった感想を言ってくれました。虫のこと、少し好きになれたかな？



グリーンボランティア活動支援事業
ぐりとぐらの森あそび

報告

■とき：10月21日(日)10時～15時
■ところ：大野市六呂師ハックルベリーの森
■講師：坂本均氏　■参加人数：親子29人

みんなでぐりとぐらになってまずは森を探検♪木のぼりにチャレンジしたり、鳥の巣を見つけたり、たき火用の枯れ枝を集めたり、初めての経験です。お昼はお楽しみのホットケーキ作り。かまどの火加減は難しかったけど、おいしいケーキが焼けました。子どもも大人も夢中で遊んだ1日になりました。

